

仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア事業 令和4年度まとめ

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ

代表理事 小林純子

1. 事業の目的

児童養護施設等入所児童が将来的に自立して生活が営めるよう、就労支援、退所後のアフターフォロー体制を構築し、社会的自立に向けた支援を行う。

2. 実施主体

実施主体：仙台市

受託団体：仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア共同体

仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア共同体は、「特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ」と「一般社団法人パーソナルサポートセンター」で構成。

3. 事業内容

(1) 支援対象者

仙台市児童相談所から児童養護施設等及び里親に措置・委託されている方、並びに施設等及び里親の養育から自立した25歳位までの方

(2) 概要

①施設入所児童に対する自立支援

②施設等を退所した児童に対するアフターケア

4. 令和4年度事業実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

5. 令和4年度事業概要

(1) 運営体制

①仙台市との定例打合せを月に1回実施し、情報共有をしながら事業を実施した。

②事務局を置き、常勤2名によって事業を実施した。

③仙台の弁護士有志で構成する「子どもリーガルサポートチーム：略称CLT」が協力団体として参加した。

(2) 事業広報

①会報を年に2回発行し、各施設と住所を登録してもらっている退所者に送付した。

②個人情報に配慮しながら、ホームページや各SNSで活動を紹介した。

(3) 事業実施概要

1) 施設等入所児童に対する自立支援

①学習会の実施

自立に対する意識の醸成と社会生活に対応するスキルを高めるための学習（生活習慣・金銭教育・職業教育等）を実施した。講師は、弁護士の方や内容に応じた専門家の方をお願いした。また、一人暮らし体験の場を提供し、実践的な学習を行った。

今年度は希望が多くあり、40回近い回数で年間計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症が流行した時期があり、下記のような結果となった。

<実施結果> 34回実施 のべ136名参加

タイトル	回数	参加者数
就職する時の留意点について学ぶ	1	1
進路について考える, 就職する時の留意点について学ぶ	2	13
施設を出た後の生活について考える	1	6
進路について考える	2	7
心も身体も健康に～キッズヨガと断るワーク～	2	9
知っておこう！男女交際と「性」	1	7
食生活 食事と栄養	2	5
大切にしたい性と命	2	25
ビジネスマナー	1	3
身だしなみ・メイクアップ	1	3
コミュニケーションとアサーション	1	4
一人暮らし直前！必要なことを学ぼう！	4	17
生活上のお金のこと（契約全般）	3	18
知っておこう！スマホとSNS	2	9
一人暮らし体験※	9	9
合計	34回	136名

※一人暮らし体験は、事前に施設を通して参加児童本人に、提供出来るメニュー（洗濯体験、買い物体験、料理体験等）の希望をアンケート形式で取っており、そのメニューに応じての一日体験となっている。

②職場見学・体験の実施

職場見学・体験は、新型コロナウイルス感染症の流行により、今年度も実施が出来なかった。そこで、2020年度・2021年度に引き続き、様々な職業の方にアンケートへの回答を依頼し、その内容をまとめた冊子「お仕事について、プロに聞いてみよう！3」を作成して配布した。

今回の冊子作成にあたっては、実際に仙台市内の児童養護施設を数年前に退所し、現在自立して働いている男性にインタビューすることも出来た。

協力いただいた業種：国家公務員、タクシー業、生花販売業、廃棄物処理・リサイクル業等

2) 施設を退所した児童に対するアフターケア

①施設等から退所した方からの相談対応

対面、電話、メール等に対応し、基本的には平日の9:30～17:30、その時間帯の相談が難しい場合は、夜間や土・日・祝日でも予約をして対応する体制にした。

新規相談者には、連絡先等を登録してもらい、継続して相談しやすい状況を整えるほか、会報の送付や安否確認等を行っていく体制をとった。

すでに支援の対象として登録している対象者に緊急用の連絡先を伝えることとし、職員の中で緊急の際の当番をあてて、連絡が取れるように心掛けた。

②退学や失業した方に対し、再就労等に結びつけるための相談対応を行うとともに、専門機関等との連携による実践的就職支援を行う体制をとっていたが、今年度はそういった方からの相談はなかった。

③住居を失った方が自力で住居を確保出来ない場合は、住宅確保に向けた支援を行うとともに当座の居場所を提供又は確保する体制を整えた。

④施設等退所者間の交流や、入所児童のロールモデルとなる施設退所者との交流を促進する予定だったが、今年度は退所者のみの参加で交流会（バーベキュー、芋煮）を2回行った。

⑤その他、各種手続きの支援・法律上の問題についての支援・会報発行等、ホームページやSNSでの発信を行う体制を整えた。ホームページは適宜更新し、一人暮らし体験等の様子は、ツイッターやインスタグラムを使って発信した。また、今年度は、ホームページ等を見て学生からの聞き取り調査（アフターケア事業について）が2回ほどあり、それぞれ対応した。

3) 相談事業について

年間を通して、232件の相談があった。

内訳

月	面談	電話	同行	ケース会議	メール	月合計
4	0	3	0	0	0	3
5	0	0	0	0	0	0
6	1	12	0	0	9	22
7	0	32	0	0	37	69
8	0	2	0	0	2	4
9	1	6	0	0	2	9
10	0	11	0	0	0	11
11	0	8	0	0	0	8
12	0	25	0	0	1	26
1	0	21	0	3	2	26
2	1	19	1	1	16	38
3	0	9	0	0	7	16
合計	3	148	1	4	76	232